
男と女2

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

男と女2

【Nコード】

N4209C

【作者名】

【あらすじ】

「男と女」から幾星霜、作者も忘れていた頃に続編登場。

よく晴れた青空の下、深刻そうな顔をした二人の男女が、町の隅の寂れた喫茶店に入っていた。

邦夫と恵美の二人は、いわゆる恋人という関係だった……今、この瞬間までは。

二人は喫茶店の端の席に腰をおろすと、コーヒーを注文した。

邦夫は相手の顔を見ないようテーブルを眺める。そんな二人の視界に、湯気と共にコーヒーが静かに置かれた。

邦夫は数分の間、黒く底の見えないコーヒーの表面を眺めた後、意を決したように顔を上げ、恵美の下を向いた顔を見つめる。

邦夫は乾いた唇を湿らせるように、舌で2、3度なぞると口を開いた。

「もう別れよう……」

恵美が弾かれたように頭を上げ、邦夫の顔を見つめる。

「えっ……どうして？ どうしてなの？」

邦夫は眉間に皺を寄せ、何かを振り払うように目をそらし、窓の外風景を眺めた。

「もう……僕は終わったんだ」

恵美はテーブルの上に置いた手を、白く変色するほど握り締める。

「そんな……嘘……」

呆然とする恵美から顔をそらしたまま、邦夫は席を立った。

「じゃあ、元気で」

邦夫の言葉に恵美も立ち上がる。その拍子にテーブルにぶつかりコーヒーカップがガチャンと音を立てた。

恵美はさすがのように邦夫の腕を両手で掴んで涙ながらに叫ぶ。

「そんなの嫌！ どうして急にそんなこと言うの？ 私のどこがいけなかったの？ こないだ貸した4万返して？ もうやり直せないの？」

邦夫は何かを断ち切るように口を開いた。

「もう、終わったんだ」

それから邦夫は小さく呟いた。

「それと4万は後一週間待ってください……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4209c/>

男と女2

2010年10月12日03時58分発行